

## 文集発刊に沿えて

2019年12月23日 私は友人の紹介で協会へ事務局長の面接を受けに来ました。

後日で他の方々から太田さんの印象を聞くこととなりますが、それよりは、ご本人は元気がなく、淡々と受け答えをされていました。後に、推察すると、もう相当に体力は消耗されていたのでしょう。協会の現状の話も淡々とされて、最後は自分の体の状況を率直に話されました。それでというわけではありませんでしたが、私は前向きな答えを述べて帰りました。翌年1月15日から協会に出勤しましたが、太田さんの姿はなく、後にお見舞いに病院に行った際に、「引継ぎできないで申し訳ない。」と律義に言われましたが、既に元気はありませんでした。そして2月7日に奥様から訃報を受け取ったのです。

私が、協会に勤務開始した途端に新型コロナの問題が発生し、起こる事象を一件、一件解決する事に追われて、忙しくなっていました。幾人か留学生のトラブルもありましたが、そこで知り合った留学生が一様に、太田さんに感謝の念を表していたのが印象に残りました。彼らは協会で会った短い時間の中で太田さんと知り合い、意思疎通をして、心の中に大きな存在として太田さんを認知していたのです。

その後だいぶ経って、太田さんが、昔の人脈をたどって私の人となり調べていた事も分かりました。「岡地ってどんな奴だと太田さんは私の先輩に聞いたそうです。」どうも、それで私が協会の面接を受けることになったらしい事がわかりました。留学生の太田さんについての印象はまちまちです。深く楽しく付き合った方と、そうでない方に分かれるようで、どうもその傾向は、太田さんは特に強そうだとも思いました。コロナ騒ぎでマスクが品薄になりましたが、中国在住の留学生OBから協会に品質の良い台湾製のマスクが送られてきます。中国の人がわざわざ台湾製です。卒業生の協会に対する愛情を感じました。その中心はどうも太田さんではないかと日々の活動で感じていました。太田さんを偲ぶ会が長引くコロナの影響で開催できそうにありません。協会に勤めれば勤めるほど、太田さんが活躍され、この協会を設立された頃と現在との間に時代の流れは感じますが、彼が留学生に注いだ愛情は残っています。そこで彼が一生懸命努力した一時代の証拠を残すことは重要ではないかと考えた次第です。多くの方々のご多忙中、ご賛同いただき この文集を発刊することができました。ご賛同された皆様には感謝いたしますとともに、寄稿に至らなかった方も懐かしい時代を思い出す契機となれば幸いです。ご協力、誠にありがとうございました。

時代により、役割は違いますが、太田さんの目指したものを継承していきたいと考えています。

2020年9月15日  
事務局長 岡地 俊彦